

2019 年度

「運営に関する計画」

大阪市立南港桜小学校

2019年4月

1 学校運営の中期目標

学校教育目標

「みんながつくる みんなの学校 桜小」を合言葉に、「すべての子どもが安心できる居場所のある学校」をつくる。そのために、学校は授業を開き、地域に開かれた学校づくりを行う。たくさんの、さまざまな大人が子どもとふれあい、かかわり合える学校づくりを行う。そして「自分で考え、自分から動く子ども」「自分も人も大切にする子ども」「失敗を恐れずに挑戦する子ども」の姿をめざす。また、「子どもから学ぶ大人のチーム」「すべての子どもを全教職員で見守るチーム」「できないことは人の力を活用するチーム」「『教える』から『促す』チーム」の教職員チーム（チーム桜）をめざす。

現状と課題

600人を超える児童数となり、コスモタウン地域からの児童数の増加に拍車がかかっている。よって遠距離からの通学者も増える中、児童の安全確保が課題となる。家庭や地域との連携の強化や防災・減災教育の充実も課題となる。学力学習状況調査の結果から、「自分の考えを持って文に書くことや自分で解釈して判断すること、さらに自分の考えを人に伝えること」が課題として考えられる。

2020年、日本の教育業界では、これからの社会で必要な21世紀型の学力を身につけさせねば、大学入試を筆頭に大学や高校の教育が改革される。今後、グローバル化の進展など社会の加速度的な変化が増し、将来の予測が難しい中において、自分自身の答えを考える力や自分の意思で結論を導き出す力、それを表現する力が求められる。また、文部科学省が発表した次期学習指導要領でも、一方的に知識を得るだけでなく、「主体的・対話的で深い学び」いわゆるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善をさらに充実させ、子どもたちがこれからの時代に求められる資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けることを目指していく必要がある。

今後、子どもたちがなりたい自分になるために必要な力の育成（「人を大切にする力」、「学びに向かう力」、「自分で考え、表現する力」、「コミュニケーション力」など）を図る必要がある。そのために、「子どもが学ぶ・子ども同士が学び合う授業づくり」をテーマに「自分の言葉で伝えることができる子どもの育成」に取り組んでいく。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- ・**令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を100%にする。**
- ・**令和2年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を95%以上にする。**
- ・**令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。**
- ・**令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。**
- ・**令和2年度末の教育アンケートにおいて「学校は、家庭・地域との連携を密にとっている」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を90%以上にする。**
- ・**令和2年度末の教育アンケートにおいて「学校は、学校だよりや学年だより、学校ホームページなどを通して、学校や子どもの様子をよくわかるようにしている」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を90%以上にする。**

- ・令和2年度末の教育アンケートにおいて「**自分も人も大切にできている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を90%以上にする。
- ・令和2年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、子どもを理解しようと努めている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を90%以上にする。
- ・令和2年度末の教育アンケートにおいて「**学校や家庭・地域などで、地震や津波などの災害が起きたときにどう行動したらよいかわかっている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を85%以上にする。
- ・令和2年度末で、地域の人や学生などで学校支援ボランティア（読書・見守り・学習など）に参加する人数をのべ100人以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・**市** 令和2年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ・**市** 令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。
- ・**市** 令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント増加させる。
- ・**市** 令和2年度の小学校学力経年調査における「**学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか**」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- ・**市** 令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横とびの平均記録を全国平均より5ポイント向上させる。
- ・令和2年度末の教育アンケートにおいて、「**学校の授業などで、学級の友達との間で、話し合う活動をよく行っている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を90%以上にする。
- ・令和2年度末の教育アンケートにおいて、「**授業はよくわかる**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を90%以上にする。
- ・令和2年度末の教育アンケートにおいて、「**自分で考えて、自分から動くことができている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を90%以上にする。
- ・令和2年度末の教育アンケートにおいて、「**失敗を恐れずに、挑戦することができます**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を90%以上にする。
- ・令和2年度末の教育アンケートにおいて、「**運動をするのが好きである**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を85%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ・令和元年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を95%以上にする。
- ・令和元年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
- ・令和元年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- ・令和元年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- ・令和元年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、家庭・地域との連携を密にとっている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を85%以上にする。
- ・令和元年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、学校だよりや学年だより、学校ホームページなどを通して、学校や子どもの様子をよくわかるようにしている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を85%以上にする。
- ・令和元年度末の教育アンケートにおいて「**自分も人も大切にできている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を85%以上にする。
- ・令和元年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、子どもを理解しようと努めている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を85%以上にする。
- ・令和元年度末の教育アンケートにおいて「**学校や家庭・地域などで、地震や津波などの災害が起きたときにどう行動したらよいかわかっている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を80%以上にする。
- ・令和元年度末で、地域の人や学生などで学校支援ボランティア（読書・見守り・学習など）に参加する人数をのべ80人以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・令和元年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ・令和元年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より4ポイント減少させる。
- ・令和元年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より4ポイント増加させる。
- ・令和元年度の小学校学力経年調査における「**学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか**」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- ・令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横とびの平均記録を全国平均より3ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- ・令和元年度末の教育アンケートにおいて、「**学校の授業などで、学級の友達との間で、話し合う活動をよく行っている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を85%以上にする。
- ・令和元年度末の教育アンケートにおいて、「**授業はよくわかる**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を85%以上にする。
- ・令和元年度末の教育アンケートにおいて、「**自分で考えて、自分から動くことができている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を85%以上にする。
- ・令和元年度末の教育アンケートにおいて、「**失敗を恐れずに、挑戦することができます**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を85%以上にする。
- ・令和元年度末の教育アンケートにおいて、「**運動をするのが好きである**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を80%以上にする。

大阪市立 南港桜小学校 2019 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を95%以上にする。 令和元年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。 令和元年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 令和元年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度末の教育アンケートにおいて「学校は、家庭・地域との連携を密にとっている」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を85%以上にする。 令和元年度末の教育アンケートにおいて「学校は、学校だよりや学年だより、学校ホームページなどを通して、学校や子どもの様子をよくわかるようにしている」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を85%以上にする。 令和元年度末の教育アンケートにおいて「自分も人も大切にできている」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を85%以上にする。 令和元年度末の教育アンケートにおいて「学校は、子どもを理解しようと努めている」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を85%以上にする。 令和元年度末の教育アンケートにおいて「学校や家庭・地域などで、地震や津波などの災害が起きたときにどう行動したらよいかわかっている」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を80%以上にする。 令和元年度末で、地域の人や学生などで学校支援ボランティア（読書・見守り・学習など）に参加する人数をのべ80人以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員室に情報が集約されるよう、どんな些細なことでも何かあれば職員室に伝えることや「全児童確認ボード」を活用して、最新の児童情報を共有する。 不登校児童が安心できる居場所を学校につくるため、全ての教職員で見守る体制をつくる。 「すべての子どもを全教職員で見守る」ために、教科担任制やシヤッフル授業、ローテーション授業などを積極的に取り入れ、様々な大人が関わることのできる環境づくりを推進する。 	

指標

- ・週 2 回の職員朝会で、子どもの情報共有をし、全教職員で早期の課題対応をする。
- ・校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。(不登校 0 を目指す)
- ・教育アンケートにおいて「**学校に行くのが楽しい**」と肯定的な回答をする割合を 80 %以上にする。
- ・教育アンケートにおいて「**困ったときに学校の大人は相談にのってくれる。**」と肯定的な回答をする割合を 80 %以上にする。

取組内容②【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

- ・学力向上のために図書館蔵書の充実による読書力の向上を図るとともに、調べ学習の充実や読書に親しむ機会を増やすために、移動書庫による学級間の交流を図る。また、さくらスマイルなど地域や保護者による図書館開放の充実を図る。
- ・「子どもと大人が学び合う場」の創造に向けて、「生涯学習ルームとのコラボ」や「さくらタレントバンク」を活用して、「社会に開かれた教育課程」を推進していく。

指標

- ・年間の児童の貸し出し冊数の平均を一人 35 冊とする。
- ・毎週 3 回以上（地域「さくらスマイル」・PTA「大人の図書館」・学校「図書館活性化事業」）図書館を開放する。
- ・年間 10 回以上、大人と子どもがともに学び合う場を創造する。
- ・教育アンケートにおいて、「**学校は地域の人材を活用したり、様々な感性を養う活動や体験的な活動を取り入れたりしている**」の肯定的な回答をする割合を 85 %以上にする。

取組内容③【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

- ・防災、減災教育の充実に向けて、学年に応じた「防災・減災教育」に積極的に取り組む。

指標

- ・教育アンケートにおいて「**学校や家庭・地域などで、地震や津波などの災害が起きたときにどう行動したらよいかわかっている**」と肯定的な回答をする割合を 70 %以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 令和元年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より4ポイント減少させる。 令和元年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より4ポイント増加させる。 令和元年度の小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横とびの平均記録を全国平均より3ポイント向上させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度末の教育アンケートにおいて、「学校の授業などで、学級の友達との間で、話し合う活動をよく行っている」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を85%以上にする。 令和元年度末の教育アンケートにおいて、「授業はよくわかる」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を85%以上にする。 令和元年度末の教育アンケートにおいて、「自分で考えて、自分から動くことができている」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を85%以上にする。 令和元年度末の教育アンケートにおいて、「失敗を恐れずに、挑戦することができます」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を85%以上にする。 令和元年度末の教育アンケートにおいて、「運動をするのが好きである」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を80%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業を「教える」から「学ぶ（促す）」に変革していくために、「子どもが学ぶ・子ども同士が学び合う」の授業に取り組む。（がんばる先生支援事業活用）（校長経営戦略支援予算（基本）の活用） 学年に応じた「体験活動」を通じて、「学びに向かう力」の育成を図る。 <p style="text-align: right;">（校長経営戦略支援予算（基本）の活用）</p>	

- ・習熟度別少人数授業や個別に応じた指導やICT機器の活用などを通して、「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習意欲の喚起と定着を図る。（ALルームの創造）

（校長経営戦略支援予算（加算）の活用）

指標

- ・「学び合い」のスペシャル講師（東京大学の小国教授）を年3回招聘（同時に実践家の招聘）し、授業研究をする。
- ・低中高のセクション部会の連携協力を密にして、みんなでつくる研究体制（一人一授業公開）の充実を図る。
- ・ALルーム（仮称）を活用して、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践に活用する。
- ・放課後学習（週3日のこども学習サポート教室）を活用して、e-ラーニング学習を行う。
- ・教育アンケートにおいて、「**学校の授業などで、学級の友達との間で、話し合う活動をよく行っている**」の肯定的な回答をする割合を85%以上にする。
- ・教育アンケートにおいて、「**授業はよくわかる**」の肯定的な回答をする割合を85%以上にする。

取組内容②【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】

- ・ICTを活用した教育やプログラミング教育に取り組み、子どもの思考力や表現力を育てる。
- ・毎週の英語のモジュール授業に取り組み、基礎基本の英語を大切にしていくとともに、Skypeを活用して、「世界への窓」として英語圏の国との交流を図る。（校長経営戦略支援予算（加算）の活用）

指標

- ・校内調査において「タブレットを使うと、自分の意見や考えをわかりやすく説明することができる」の肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
- ・校内調査において「タブレットを使うと、自分の考えや調べたことをわかりやすくまとめることができる」の肯定的な回答をする割合を85%以上にする。
- ・「プログラミング教育」のスペシャリスト（同志社女子大学の上田教授）を年3回招聘し、「協同的・創造的思考家」（クリティカルシンカー）を育てるためのプログラミング教育を研究テーマに授業実践を行う。（がんばる先生支援事業活用）
- ・教育アンケートにおいて、「**失敗を恐れずに、挑戦することができている**」の肯定的な回答をする割合を85%以上にする。
- ・教育アンケートにおいて、「**英語の学習は楽しい**」の肯定的な回答をする割合を75%以上にする。

取組内容③【施策7 健康や体力を保持する力の育成】

- ・体育科の授業を中心に、各種学習カードを活用するなど、より進んで体力づくりに取り組む。
- ・「手洗い習慣の定着」を図り、自分の体は自分が守ることを基本に、健康維持を促進する。

指標

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳びの平均記録を全国平均より3ポイント向上させる。
- ・教育アンケートにおいて、「**運動をするのが好きである**」の肯定的な回答をする割合を80%以上にする。
- ・教育アンケートにおいて、「**ハンカチ・はなかみを持ち、食事の前には手洗いができる**」の肯定的な回答をする割合を90%以上にする。